



私のひとりごと

「空き家対策に思う」

空き家対策法が施行され、空き家改修がブームのようになっている。テレビでも、古民家を再生して店舗などにした例が多く放送されていたりする。ここで空き家対策法の成り立ちに少し触れておく。近年、古いビルの看板や外壁のタイルの落下による事故が目立つようになった。建物は必ず老朽化する。個人の住宅が老朽化しても、ビルほどの被害をもたらす可能性は低い、それでも倒壊による被害や衛生上の影響など、空き家をもたらす悪影響の発生を鑑み、空き家対策特別措置法が施行されることになったのである。

さて、話を本題に戻すが、私の自宅から会社までの約6キロの道中でも、近年、空き家が目立ち始めている。その中の一軒で、60坪以上もあると思われる空き家がある。道路沿いの広いお屋敷で、猫の額のような敷地に住む私にはうらやましいかぎりである。ただ、空き家になってから長い年月が経過しており、朽ち果てるのも時間の問題だなぁ〜と、常々思っていた。ところが、最近その空き家のリフォームが始まった。聞くところによると、空き家対策で補助金が付き、「カフェ」に改修しているらしい。時を同じくして、私の住む集落でも空き家対策で、集落の外れにある藁葺き（わらぶき）の民家を借り受けリフォームする話が出た。もちろん費用は高額な補助金で賄うことになる。



【新しく生まれ変わることは喜ばしいのですが…】

商売や事業を行うことを前提とし、オーナー募集もしているとのこと。地元ということもあり、改修工事の依頼があった。私も古民家再生の工事は何度か手がけたことがあるが、この工事で一番の問題点は耐震性。新築ならば、建築基準法に適合した設計をし、マニュアル化した施工手順通りに造れば問題ないが、伝統的な工法で造られている古民家の場合、そうはいかない。若い大工さんなどにはなかなか理解し難い工法で、耐震上、重要な部分の判断が難しく、うっかり取り除いてしまいそうになることもある。古民家再生には、工事を行う者のスキルと経験、それから高額な予算が必要になってくる。なので、よほどその建物を残さなければならない理由がある場合を除き、お勧めはしていない。今回、依頼があった担当者に話を聞けば、「耐震性」は除外されているから気にしなくて良いらしく、それよりも補助金の予算を使いきらないと、お金を返さなくてはならないことを心配していた。私は、この話を聞きあきれ果てた。いや、正確には腹立たしかったのである。確かに私たちは、お医者さんや救急救命士のように、直接的に人の命に関わっていない。でも、間接的には、火災や地震などの災害時に人の命を守る仕事に携わっているのは間違いない事実である。そのような仕事をしている私たちに、言う言葉ではないと思えたからである。

空き家を再利用することは、大いに結構なことである。それにより雇用も生まれ、村が活性化するならなおさらである。しかし、空き家対策には行政が絡み、多額の税金が使われている。なのに本質的に大切な事が、ともすると置いておかれ、そして、いざ何か不具合が発生しても誰も責任を問われない流れが、こんな地方でも構築されているとは…。まるで豊洲市場問題のようになるかもしれないことが、私たちの身近でも起こっているのである。表向きは夢のある計画の裏に隠された問題点を、誰も語ろうとしない現実を貴方はどう思われるだろうか…？

そうそう、その空き家改修工事は、丁寧に断りしたことは言うまでもない。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがし
ごさいました!!

